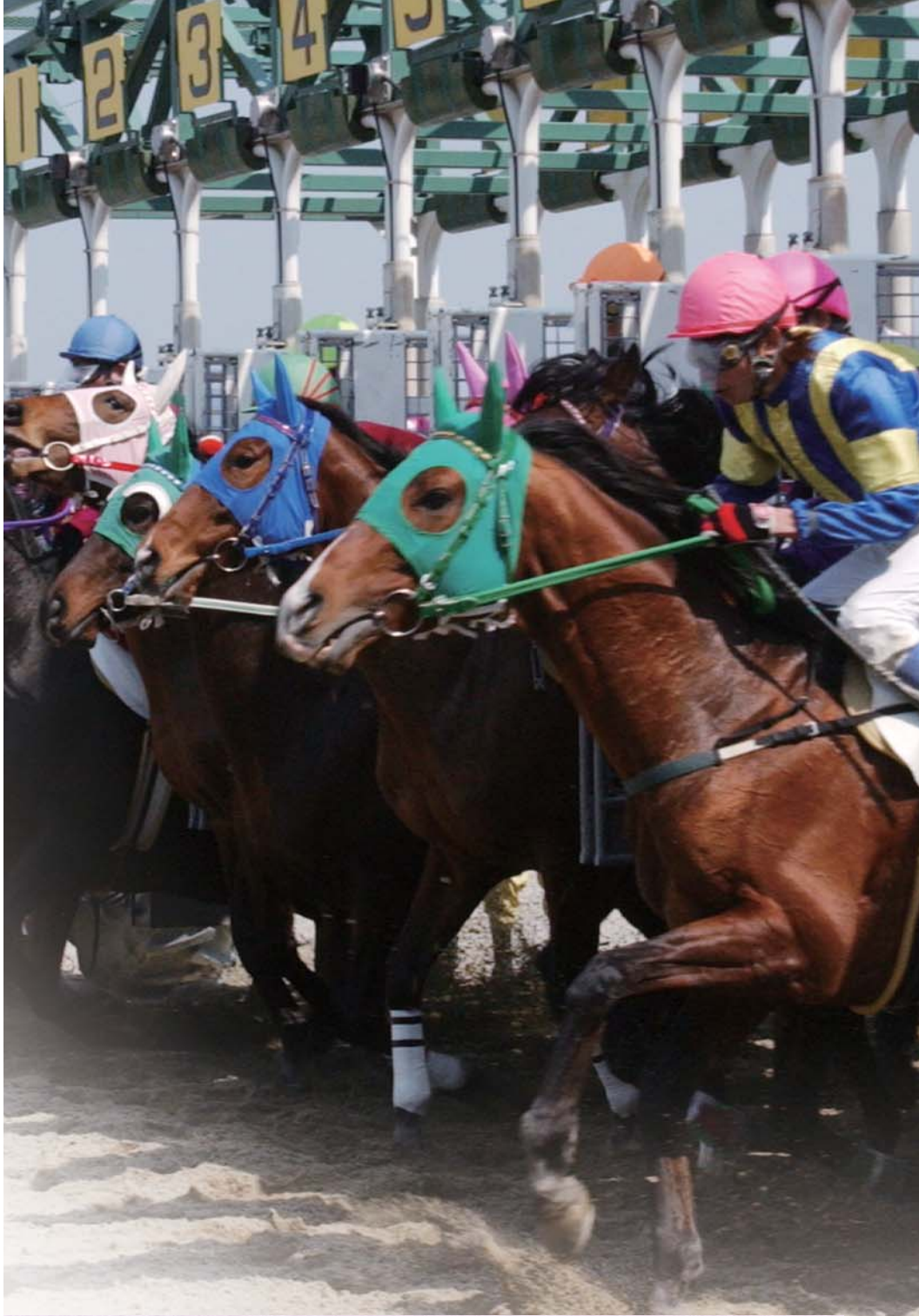




岩手県競馬組合が主催する岩手競馬は、平成3年度をピークに売り上げが減少し、12年度決算で赤字が発生しました。それ以降、その額が年々増加し、極めて厳しい経営状況になっています。

先ごろ競馬組合は、これまでの計画を見直して「新しい岩手県競馬組合改革計画（案）」を作成し、経営改善に向けた新たな道筋を示しました。

本市は競馬組合の構成団体となっており、市民の皆さんにこの改革計画案の概要を紹介し、岩手競馬の今後の方向性について考えます。

岩手競馬を考える

新しい岩手県競馬組合改革計画（案）の概要

競馬事業とは

競馬の目的と役割

岩手競馬は、千年余りに及ぶ馬産の歴史と伝統を有する岩手の地に根付き、現在では「みちのくレース岩手競馬」の愛称で、岩手県内外の多くのファンに親しまれています。

岩手県競馬組合は、その収益の中から、組合に加入する構成団体へ利益金を配分し、地方財政へ大きく貢献してきました。また、地方競馬全国協会（地全協）と公営企業金融公庫への納付金により畜産振興や公営企業の経営に貢献してきました。さらに雇用の面では、競馬関係への就業の機会を提供してい

ます。

このほか、多くのファンに健全な娯楽を提供しながら、馬事振興や馬事文化の継承など、多方面にわたり重要な役割を果たしてきました。

地域への経済効果

岩手県競馬組合は昭和39年に設立以来、現構成団体の県に223億9400万円、本市に101億8400万円、盛岡市に81億4500万円、合計約407億円の利益金を配分しました。配分金は、一般財源として産業振興、医療福祉および教育など広い分野で活用されてきました。また、地全協は全国の地方競馬主催者の納付金から本県の畜産振興に76億円を補助しています。

一方、約2500人の競馬関係者（約1万人の家族）の雇用と毎年約100億円に及ぶ直接的な経済効果があり、地域経済への影響は計り知れないものとなっています。

経済効果（約100億円の内訳―18年度）

従事員賃金7億円、賞典費33億円、その他開催経費44億円、来場者飲食など13億円

関係者数（約2500人の内訳―18年3月現在）

組合・公社77人、従事員913人、馬主695人、調教師41人、騎手31人、厩務員218人、関係会社・団体360人、食堂業者134人



水沢競馬場のパドック

利益金分配一覧

利益金の分配	岩手県	223 億 9,400 万円
	奥州市（旧水沢市）	101 億 8,400 万円
	盛岡市	81 億 4,500 万円
	一関市（※）	2,300 万円
	計	407 億 4,600 万円
地全協補助金（岩手県全域）		76 億 4,100 万円

※一関市は昭和39年から44年まで競馬組合に加入



教育



保健医療



畜産振興



社会福祉

収益分配金総額
約407億円
（昭和39年～平成10年）